

平成21年度 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200932		
法人名	特定非営利活動法人縁会		
事業所名	グループホームゆかりの里		
所在地	〒262-0012 千葉県千葉市花見川区千種町380-6		
自己評価作成日	平成21年11月25日	評価結果市町村受理日	平成22年3月2日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	〒260-0026 千葉県中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成21年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は沢山の縁の中に生かされ、大切なのは与えられた縁をどの様に活かすかです。小さな縁が情に変わり最後まで看取りたい気持ちですが入居者が入院し医療行為が必要になり退去せざるをえないときは辛いですが、誰もが平穩無事な人生を送れる訳ではない。だけど今の社会は認知症が重度になり、医療行為が発生した時入院もままならない方もあり、生きにくい、居場所だてないのが現状です。せめて痰の吸飲、胃ろう行為などご家族が出来る範囲の事を指導を受けてある程度出来るのであれば嬉しいです。利用者の安全の為という行政側の言い分を引き下げて利用者への行動を制限せずに可能な限り支え続けられる福祉がベストだと思うが行政・地域の方達にも知って頂きたい。私達スタッフはここが良いと望まれるのであればラストステージまで一緒にしたい気持ちです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念の柱である「基本的人権の保護」「安心して家庭的な生活が出来る」「生き甲斐を持って生活する」をホームのスローガンに落としこみ、管理者と職員で共有し、日々のケアで実践につなげている。ターミナルケアに対する前向きな考え、利用者との積極的な関係づくりは素晴らしいものがある。医療行為に関しては、現行制度ではなかなか難しい問題もあるが、市町村にも働きかけながら、少しでも、入居者と家族の希望に応えようと努力している。また、入居者と職員で結成している「ゆかりの里」コーラス隊」は千葉市のNPOのお祭りへの参加等、地域との交流に大きな役割を果たしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は事務所に掲示しホームのスローガンは人目につく所に「認めあって行こうよ、支え合っていこうよ、触れあう心が嬉しい安らぎのあるゆかりの里」と掲示されている。法人の理念は事務所に掲示しホームのスローガンは人目につく所に「認めあって行こうよ、支え合っていこうよ、触れあう心が嬉しい安らぎのあるゆかりの里」と掲示されている。	「認めあって行こうよ、支え合っていこうよ、触れあう心が嬉しい安らぎのあるゆかりの里」のスローガンを職員全員がしっかり身に着け、コーラス隊を作るなど生き甲斐作りにも力を入れている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームへの出入りは自由で、地域のお祭りに参加したり、ホームのイベントに招待したりしている。100円セールふれあい広場では沢山の方達よりご寄付があり80人の方達が集まってくれました。入居者は「いらっしゃいませ！ありがとうございます」と緊張気味の皆様でしたが生きる喜びそのものでした。	11月に開催された100円セールでは、近隣へのポスティングを職員自ら実施したこともあって、80人が来訪し、入居者も来場者に掛け声をかけるなどして、地域の中で生きることを実感した。また、犢橋高校の新任教諭の研修をの受入れもしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして管理者・看護師と共に年2回認知証の理解が深まるように地域の人々に発信している。2月にはあやめ台団地にて「認知証でも大丈夫、地域で支えよう」のタイトルでお話させて頂きました。12月にも予定があります。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	やまびこ運営推進会議と名付、犢橋高校校長、ふるさと農園長、自治会長長寿会長、民生委員、あんしんケアセンター、近隣住民、家族会、入居者等沢山の方達によって運営され沢山の意見を頂戴しております。9月は職員ストレスについてお話をさせて頂きました。貴重な意見交換がなされました。	スケジュールの調整が難しく、3ヶ月に1回の開催となっているが、毎回、多方面からの参加があり、出された意見をサービス向上に生かしている。	

グループホームゆかりの里 自己評価および評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	最近では医療行為について相談に行きました。若年性認知症の方が医療行為が発生し、ラストステージまで一緒にいたい希望がありました。市町村はやめて下さいの一辺倒、ご家族が出来る範囲のことを指導を受けて医療は手薄ではあるが是非介護職にも希望したい旨を話し、又厚生労働省の視察の折にもお願いしました。	行政との懇談会にも出席しており、何かあると、市町村の窓口で相談している。最近では医療行為について相談した。	医療行為については、現状の制度の中ではなかなか難しい面があり、市町村が消極的であるが、今後とも折に触れ、ホームの考えを伝えていながら、情報交換することが期待される。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に値する玄関の施錠、四点柵、オムツ等も出来るだけ外したい、認知があり指示の入らない入居者の方は時間でトイレに行き自パンツにパットだけで過ごしています。日中は滅多に濡らすことはありません。	玄関の施錠を含め、身体拘束はしていない。職員は、身体拘束に関する研修会などに参加しており、禁止行為についてもよく理解している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護職が悩んでいるのは入居者による言葉が虐待に値するのではないかと職員は入浴時の観察であざや傷等に可能性がないか見極めている。研修を申し込んでいるが、応募者が多く回ってこないのが現状である。まだまだ勉強が必要と感じている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は利用者について成年後見人制度をご家族と共に学び、若年性認知症の方に娘さんが決まり活用しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬改訂時も3回の説明で納得して頂いたと思う、分からない方には個別にお話させて頂いている。現場スタッフもご家族に聞かれた場合説明できるように会議にて説明会を持ちました。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの提案は職員で話し合い決まった事を速実行に移し、毎月のお知らせで報告している。	利用者・家族等の意見は、年2回の家族会や、日頃の面会時に把握するようにしている。金銭管理の方法について意見が出たことがあったが、新たにマニュアルを制定して、管理している。	

グループホームゆかりの里 自己評価および評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は常に情報交換をして話し合うように努めている。給与規定変更時にも2回、3回と説明会をもち理解頂き乍ら進めている。業務内容にしても常に報告しあい意見を聞き納得できる形をとっている。	管理者、職員の参加する職員会議は、1ヵ月に1回開催し、勉強会も兼ねて話し合いをしている。提案に対しては、できないことについてもきちんと説明し、納得を得るようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人代表は個々の行事等においても、め一杯頑張っている職員に頭が下がる想いが常にあり、働きやすい職場環境等に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は予算の範囲で、年に1回は当たるように研修予定を提示し個人の意見を聞きながら出張命令を出し、自主参加も進めている。内部研修も職員会議時に行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修のみ、他ホームとの交流はコーラス隊を通じて見学程度、他ホームとの話し合いは途中まで進むが、実現できてない。交流場面は管理者が率先してつくっていかねばならない。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員に対して出来るだけ多くの情報を伝えるようつとめている。入居当初は不安になるので職員が密着して傾聴し話の中から不安や訴えをくみ取り信頼関係を築いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望者に対して、入居に至るまでの状況をお聞きしているが在宅が一番困っている事、入居してからの不安、面会や外出は自由、散歩は晴天時は毎日実施している事など強調している。		

グループホームゆかりの里 自己評価および評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望者に対して、ゆかりの里が最良の選択肢であるか状況の聞き取りを行っているが、入居後の状況もご家族・行政も含めて話し合いをもち検討していた人が環境を変えることも一案と決まり、転居予定の方がいます。1年半後、考えも若く認知度の差に馴染めず入居前に提案出来ればと反省。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所に一緒に立ち調理、洗濯物を干したり、散歩をしたり沢山の「ありがとう」に感謝して一緒に過ごしている。より良い関係づくりに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の予定と、ゆかりの里便りを送り、ホーム内の生活がイメージできるようにしている。面会時は必ず声かけし心配事はないか、小さな事も報告したり、家族会の力をお借りし行事等には積極的に声かけし参加型を目指している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1回の利用料の支払い等現金でお願いしている。面会には全員の方がこられ、お部屋にお茶を運んだり、昼時は食事を一緒にお誘いしている。今のところ外部より2名のかたに友達がきたりしている。より良い関係づくりが出来るよう努めている。	絵手紙を送る支援をしたり、元入居者がいる施設にコーラス隊として出かけ旧交を暖めたりしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知の差があり友達が出来にくい方には職員が沢山関わるようにしているが、仲間から見られない様に、やきもち焼かれないようにしている。又デイサービスにお届け物をしたり、外部の人との関わり合いを深めるようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後医療機関より、施設への転居(小規模多機能)された方が、体調が良いときはホームへ遊びに来たり、ゆかりの里もコーラス隊として訪問し、一緒に歌を歌う場面もあった。ご家族には広報を送り交流を持っている。		

グループホームゆかりの里 自己評価および評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えを聞くようにしている。表情などから察したり、職員間で意見を求め合い、情報交換しながら対応している。把握しきれずに我慢させている部分も多々有るかもしれない。夜間等時間等かけて内なる声を聞く様努めている。	日頃の会話から思いを把握するよう、努めている。夜、お茶を飲みながら、少しずつ会話を深めていく等、一人ひとりの思いを聞く努力をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使いご家族の力を借りながら、生活歴を挿入し仕上げていく。本人の言葉より思いを把握しケアプランに表す様に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態はバイタルチェックで把握し、散歩やお手伝いは有する能力に応じて、声掛けしながら一人ひとりの精神面での把握にも力を入れている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にご家族と話し合い、ケアプラン内容に反映させるようにしている。職員間で話し合い、モニタリングは少しの時間利用しやっている。課題は沢山あり、日々の小さな変更や工夫についてその場で話し合い申し送りして統一している。	入居者や家族の意向は日頃から聞くようにしており、職員とは担当者会議で話し合っている。3ヶ月ごとにモニタリングをして、細かく変更している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りと支援経過を重視し情報の共有に努めている。日々の小さな事も個人記録に記載するようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診など家族が行けない時は代行している。入院時も混乱していないか、食事は？気になる部分を支援する為1週間に2回程度様子伺いにいき家族の負担軽減等協力を惜しまない。		

グループホームゆかりの里 自己評価および評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の住民・高校生との関係、窓越しに声掛けしたり、手を振ったりは日常的に行われている、一人で散歩に出て、職員が気づかずに近隣の方から声掛けされたり、連れてきて頂いたり、又回覧板届ける方は嬉しそうに「今日はいたよ」地域の情報を話してくれる。これも社会資源と感謝しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診体制が整ったが、お互いに未だ馴れていない所あり、不具合な所等、ホームの要望も院長と話し合い微調整が必要と思っている。ご家族にもお知らせし同席を進めている。	ホームのかかりつけ医の他、もともとのかかりつけ医がいる入居者については家族の協力を得て支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週1回勤務・デイ看護師とも連携し、医療面は日々相談し指導受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は週2回程度面会し、どのような状況か把握し、状況の変化はご家族に報告し早めの退院に向けて相談したり、サマリーだけでなく情報の収集につとめている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアを行った入居者がおりご家族・併設のデイサービス看護師全職員と話し合いを重ねてターミナルケアに取り組んだ。今いる方達においても、本人・ご家族が望むのであれば協力のもと取り組んで行きたい、ネックになるのが医療行為、必ずや発生するであろう事もふまえて話し合うべきと思っている。	すでに看取りの経験がある。往診してくれる医師を探し、家族や医師と話し合いを重ねながら、全員で取り組んだ。今後も、家族や入居者の希望に沿いたいと考えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員から救命救急の講習会を受け心肺蘇生等の応急処置について勉強している。まだまだ充分とはいえないのでこれからも実践力を身につけたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災・消火・通報訓練、夜間対応訓練は行っている。避難場所として高校の校庭を地域の方達と進めている。近隣の方の協力体制も出てきている。	併設のデイサービスと協働で、訓練を行なっている。夜間対応の訓練も実施しており、運営推進会議のメンバーのサポートで、地域の協力体制もできている。	

グループホームゆかりの里 自己評価および評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意向、誇りに思っていること等話題にして自信に結びつけています。言葉のきつい方がおり、課題は沢山あります。	接遇研修が実施されている。入居者の中には認知症の症状で言葉がきつくなる人もいますが、職員はやさしく対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉が中々出にくい人がいて時間をかけて聞いたり自己決定に結びつけたりしている。他の方達は思い思いに自己主張したり元気のあるしっかり者の皆様です。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者は活気ある生活を、皆の大好きな散歩は毎日出かけ地域の皆様との触れあいを楽しんでいます。今の時期はドングリを夢中で拾い集めて、お土産に又雨天時はギターに合わせて歌い、ゲームを楽しむ。すぐに言合いなるが、私達は喧嘩なんかした事ないと？いつ聞いても応えてくれる皆様です。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	雨天時はお化粧を楽しんだり、コーラス隊で出かけるときは10才くらい若返り、きれいにしてニコニコ顔で出かけます。部屋を毎日片付け、ゴミ一つない入居者様もあります。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者一人一人に合わせた買い物・食時の準備、後かたづけを共にしている。日常生活動作の低下や好き嫌いの多い人にはさりげなく、それぞれに合った支援をしている。	手伝いが可能な人は、積極的に配膳や後片付けに参加している。また、職員も一緒に、和気藹々と食事を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない人、水分量の少ない人には記録をとり、個々に応じた支援をしている。入居者にとって大切な方は、私達にとっても大切な方と仏様へのお水、手を合わせる等共に行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導のもと食後の歯磨き、入れ歯の手入れ、誤嚥性肺炎にならないようにしっかり食後の歯磨きの習慣、口腔ケアをしている。		

グループホームゆかりの里 自己評価および評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく日中はオムツは減らし感覚のない人・指示の入らない人にも自パンツにパットで時間で排泄のパターンを調べ誘導している。日中は失敗は見られない。反対に自立の人が面倒くさいとパットにたっぷり、トイレにいけない人等に課題は沢山あります。	排泄チェック表でパターンを把握し、時間を見計らってトイレ誘導して、自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味のかたが多いので繊維質の物をおやつに出している。水分量を記入し便秘への取り組み、運動へのはたらき掛け、又アローゼンで調整、それでもないときはレシカルボン座薬を挿入したり、記録をとりながら順番に取り組んでいる。又力むことが忘れた人へは時間をかけて出したりする。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夏場はシャワー浴を取り入れて毎日入浴している方もおり、最低でも週3回は支援している。入居4年になる方が家で入るからここまでは入りたくないと言われるが、工夫しながら洋服を脱いでしまえばゆっくり楽しめる。	できるだけ、入居者の意向にそって、支援している。併設のデイサービスのお風呂を利用することも多い。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆかりの里の皆様はソファで食後うとうとする方はいますが、元気で何かをしているため、19時半になるとそろそろ眠くなり就寝準備に入ります。中には21時過ぎまで起きている方もありますが比較的早めの就寝です。入眠剤は服用しておりません。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は新しい薬剤には副作用等調べ把握している。服薬は3人(遅番準備・夜勤者確認・早番飲み込み確認)の目で誤薬のないよう管理し服薬支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者は野菜の収穫・花の手入れ・編み物など楽しんでいる。若年性認知症で言葉を発せなくなった方にマフラーを編んでくれた入居者がいてご家族から大変喜ばれ、本人照れながらも嬉しそうでした。		

グループホームゆかりの里 自己評価および評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は大好きで今日はふるさと農園、犢橋高校一周・住宅街等散歩コースに恵まれ楽しんでいる。外に出るのが好きな人には職員に同行し市役所・国保連・他事業所・精米所にも行き日に3回～4回も出かける人もいる。ご家族来園時は散歩に入ったり、買い物・食事に行ったり楽しんでいる。	調査当日、調査員が訪問した時間に、入居者は散歩中で不在だった。毎日の散歩や買物等、日常的に外出している。この他、家族の協力を得て、お墓参りの支援をしたり、みんなで温泉に出かけたこともある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の財布を確認し記録したり、少なくなっている方にはご家族にお願いしてお小遣いをいただいたりしている。何も分からないと思っていた人が娘さんより小遣い2千円頂いたとき言葉に出して職員に教えてくれた。嬉しかったんでしょと職員も喜び合う姿ありました。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと自ら行ってくる人は4人、手紙は書けなくなっている。絵手紙を書いた時はご家族に投函している。他グループホームのかた達と絵手紙による交流を支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼ホールは冬場は採光を取り入れているが、暖かくて暖房費の節約になり嬉しい部分もある。テーブルに座ったとき顔に陽が差し、帽子をかぶったりする事もある。テーブルをずらしながら座るときもあり居心地のよい環境を工夫検討している。	季節を感じさせる鉢植えや絵手紙が飾られ、明るい居心地のよい空間である。温度調節も適切である。高い窓から日差しが差し込むが、テーブルの位置を工夫する等しており、特に混乱の原因にはなっていない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	友達同士2組おり、ゲームを楽しんだり会話をすることが認知が進み仲間づくりが出来ない方、認知が進んだ方は仲間から怒られる事多々あり、居場所あるとはいえない状況、職員が沢山関わることがやきもちを焼かれる事あり、十分とはいえない。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室エアコン完備され空調管理は適切に行われている。居室は南向き・東向きに面し明るく採光を取り入れている。馴染みの物やご家族の写真、趣味の作品などが飾られ、自分の部屋と理解あり、居心地よく工夫されている。高いところの掃除は業者予約済みである。	各室とも明るく、使い慣れた品が置かれたり、写真や人形を飾るなど、自分らしくいられるように、家族と一緒に部屋を作っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで各所に手すりを設置しグループホームとして何度も話し合い建設された。つまずきや転倒の原因にならないように床の水濡れ・ビニールにすべったりしないように注意をし工夫している。		